

読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

西日本豪雨で被災した倉敷市真備町川辺地区の住民らでつくるグループが子育て世代向けに「防災おやこ手帳」を作りました。記事を読んで質問に答えましょう。

防災おやこ手帳作成

真備・川辺の住民ら

西日本豪雨で被災した倉敷市真備町川辺の住民らでつくる「川辺復興プロジェクトあるく」は、子育て世代向けの「防災おやこ手帳」を作成した。同世代の実体験を基に、水害から子どもと家族の命を守るヒントをまとめ、各家庭ごとに避難のルールを考えて記入できる欄も設けた。県備中県民局の提案型協働事業の一環。(寺尾彰啓)

手帳はA5サイズで、11ページ。家族内で認識にずれがあつて避難行動が遅れたことなど被災エピソード4例を紹介。事前に決めておきたいこととして「マイ避難先」、逃げ始めるきっかけとなる「避難スイッチ」、「持っていくもの」の3点を挙げた。

避難先は公共の避難所のほか、友人、親戚宅への「お泊まり」、車中泊などの「アウトドア」、ホテルを使う「プチご褒美」など記

川辺復興プロジェクトあるくが作成した防災おやこ手帳

西日本豪雨被災体験基 命を守るヒント掲載



や、思い出の品の流失(表41)は「水害に遭つてを防ぐため、高い場所へ保管するようアドバイスしている。」

月末までに真備町地区と近隣の小学校、幼稚園、保育園などに配布するほか、希望者には無料で郵送する。配布希望、問い合わせはああるくの榎原聡美代(artku.2018.10.18@gmail.com)へ。

10月25日付、山陽新聞朝刊日曜ワイド

★の数は問題の難易度を表しています。

Q1 ★★★★★

「防災おやこ手帳」で挙げられている事前に決めておきたいこと3点を、第2段落から書き出しましょう。

Q2 ★★★★★

手帳では、公共の避難場所のほかにどんな所が避難先として記入できるようになっていますか。第3段落に注目して答えましょう。

Q3 ★★★★★

水害から命を守るための避難ルートについて、おうちのひとと話し合い、避難マップを作しましょう。

子どもから「怖い」と言うことが避難のきっかけになるんだね

